



亀っ子だより

第29号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2020年11月4日

信号機のない横断歩道で・・・

J A F（日本自動車連盟）は、10月16日（金）、「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査」2020年版の結果を発表しました。この調査はJ A Fが2016年から毎年行っているものです。信号機のない横断歩道を歩行者が横断しようとしている場合、クルマは一時停止しなければなりません。今回、調査対象となった車両9434台のうち、歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止した車は2014台（21.3%）だったそうです。前年の調査時と比べて4.2ポイント増加したものの、依然として約8割のクルマが止まらない結果となりました。

都道府県別の一時停止率ベスト5、ワースト5は次のとおりです。

●ベスト5

- ・長野：72.40%
- ・兵庫：57.10%
- ・静岡：54.10%
- ・新潟：49.40%
- ・島根：43.20%



●ワースト5

- ・宮城：5.70%
- ・東京：6.60%
- ・岡山：7.10%
- ・富山：10.70%
- ・徳島：11.80%



※全国平均 21.3%

— 乗り物ニュースより —

ちなみに愛知県は、32.5%で、全国8位だそうです。それではなぜ、長野県は7割以上の車が一旦停止をするのでしょうか（ここからは、ボラパトさんから伺ったお話です）。長野県の子どもたちは、信号のない横断歩道で一旦停止してくれた車に対して、横断歩道を渡り終わると頭を下げて感謝の気持ちを表すのだそうです。そして、その感謝する習慣は今も大切にされ、その環境の中で育ってきた大人になった人たちも一旦停止するのが当たり前になっているのだそうです。長野県では、子どもたちの感謝が好循環を生み出し、一旦停止率ベストワンに輝いているのです。

亀崎小の子どもたちはどうでしょうか？残念ながら、横断歩道を渡った後にお辞儀をする子どもはあまり見かけません。恥ずかしながら学校でも、一旦停止をしてくれた車に「お礼を言おう」「お辞儀をしよう」という指導はあまり行っていません。なので、ボラパトさんからこの話を聞いた後、せめて私が子どもがわたる時に一旦停止をしてくれた車にはお辞儀をしようと思いました。そこからだんだんと子どもたちに、お礼の輪が広がっていくことを期待します。気の長い話かもしれませんが、この校長通信を読んでもくれた子どもたちが、賛同してくれることを願っています。そして、亀崎小校区の横断歩道で、



一人の交通事故も出さないようにしたいと思います。

5年生が作成した防災マップ

5年生が作成していた防災マップが完成しました。1学期、防災交通課の方から地震や津波が来た時にどんなところが危険なのか講義を受けた後、亀崎自主防災会の方やPTAのお母さんに見守っていただきながら、実際に地域を歩き、危険箇所を調べ、写真に撮ってきました。その写真を元に、地域の方、高齢者の方、幼稚園・保育園児のみなさん向けに危険箇所を示した地図を作成しました。そして、それぞれの地図を公民館・地域総合福祉センター・幼稚園に代表の子どもたちと先生とで届けたところ、3ヶ所とも快く受け取ってくださり、掲示してくださいました。

手前味噌ですが、私が素晴らしいと思うのは、学習としての流れがとてもスムーズだと感じることです。だからきっと、子どもたちは最後まで意欲的に学習に取り組んだことと思います。もう一つ思うことは、地図としてまとめる時に、誰に対してこの情報を伝えたいのかというこ

とを具体的に思い浮かべながら作業を進めていったことです。なので、きっと子どもたちのメッセージが、掲示された場所にいる人に届くことと期待しています。亀崎小の皆さんはもちろん、保護者の皆さんも、子どもたちの力作をぜひご覧になってほしいと思っています。

3年生、逃走中・・・

3年生がテレビ番組でよくやっている「逃走中」を行っていました。先生がクラスに課した課題をクリアしたので、お楽しみ会として行ったのだそうです。なぜ逃走中にしたのかと子どもに聞くと、子どもたちの発案だそうです。ハンターが追いかけ、その他の人は逃げ、ハードなゲームでしたが子どもたちは楽しそうでした。最後に、「ルールとして改善した方がいいところはありませんか？」と先生が尋ねると、たくさんの手が上がり、子どもたちが意見を発表していました。その姿にとっても感心しました。伸びようとしているクラスがあることをとてもうれしく思いました。

♣ 子育てアラカルト ♣

【子どもというものは】

子どもは（とくに小さい子どもは）かわいいものである。しかし

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 やかましいものである | 2 落ち着きのないものである |
| 3 計画性のないものである | 4 反省しないものである |

子どもによって多少違うが、大人に比べれば上のことが言えるといってもいい。だから、あまり心配することはない。ほとんどの子は大人になるにしたがって、①だんだん静かになり、②落ち着きが出てきて、③計画的なものごとをすすめる、④失敗すれば反省するようになってくるものなのだ。中には、子どもの心をいつまでも持ち続けている純粋な人もいるにはいるが・・・。

【心に刻む言葉】

環境が人をつくる その環境は人によってつくられる
子どもにとっての最大の環境は親ではないか！
環境(親のあなた)が変われば子どもも変わる

(ある教育者のひとり言 より)